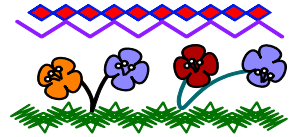




第5・6学年「道徳」シラバス

道徳ではこんな学習をします



道徳教育は

人間が本来もっている「よりよく生きたい」という願いや「よりよい生き方を求め実践する人間」の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

小学校では、人間としてよりよく生きるために共通の心構えや行動の仕方をさまざまな体験や学習を通して学びます。基本的な生活習慣やルール・モラルの指導をしたり自然体験活動やボランティア活動などの体験活動をしたりして道徳性の育成を図っていきます。

道徳性とは

人間としての本来的なあり方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為の可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。

人間が人間としてともによりよく生きていく上で最も大切にしなければならないものです。

道徳教育の評価

道徳教育における評価は、児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し勇気づける働きをもつものです。観察や面接、質問紙、作文などを利用して道徳性の共感的理解に努め、その結果を指導に生かすようにしています。

道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行いません。

学校では

道徳教育の目標、道徳の時間の目標に基づいて道徳教育の全体計画と年間指導計画を作成しています。

また、学級では、学級における指導計画を作成するなどして道徳教育の充実に努めています。

さらに、道徳教育の指導にあたって、教師と児童の信頼関係及び児童相互の人間関係を深めたり、家庭や地域社会と連携したりして道徳的実践の充実に努めています。

道徳の時間は

1 自分自身に関すること

- (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
- (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。
- (3) 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。
- (4) 誠実に、明るいい心で楽しく生活する。
- (5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。
- (6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。

2 人とのかかわりに関すること

- (1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。
- (2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。
- (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。
- (4) 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。
- (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

3 自然や崇高なもののかかわりに関すること

- (1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
- (2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。
- (3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。

4 集団や社会とのかかわりに関すること

- (1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。
- (2) だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。
- (3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
- (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
- (5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。
- (6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。
- (7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
- (8) 外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

学校ではこれらの内容を全体にわたって指導しますが、児童や学校・学級の実態、特色などを考慮して、さらに重点的に指導していきます。